

18. 滋賀県における未熟児の研究（第4報）

未熟児出生に影響を及ぼす因子について

滋賀県立短大

佐藤美智栄

1. 乳児死亡改善の諸問題中主位を占める未熟児の実態調査を実施し，県下の未熟児の現状を把握し，保育指導指針の確立を期せんとする。

2. 彦根保健所管内における昭和36年1月1日以後現在迄に未熟児を出産した母親を対象に調査を行なった。

3. 滋賀県における未熟児の出現率及び死亡率，並びに未熟児の心身の発育については，第1報～第3報に発表したもので，今回は未熟児出生に影響を及ぼす因子についての中間報告をする。未熟児の中，約4割余が満期出産に満たない早産未熟児であった。又1月より現在迄の月別出現は6月が尤も高率を示した。又母体妊娠中の異常は早期破水及び妊娠中毒等があげられ他に狭骨盤も見られた。尚母の職業としては約半数が家事の外，農業労働又は商業に携さわっていた。